

附 録

ノーベル賞受賞者・受賞理由

明らかな誤り以外は、全般的にノーベル財団公式サイト (<http://www.nobel.se/>) の記述に従った。

原則として年度、名前、国籍、受賞理由の順。

年度：賞の年度順に並べた。実際の決定が翌年の場合は、名前のあとにその旨を記した。

名前：姓以外はイニシャル。読み方は原則として受賞時のものを採用。

国：受賞時の国籍。独、西独はノーベル財団の記述に従った。

受賞理由：「発明」「発見」が明記されている場合にはそれを優先。多少変更した場合もある。

物理学賞

年度	名 前	国	受 賞 理 由
1901	W.C.レントゲン	独	レントゲン線（X 線）の発見
1902	H.A.ローレンツ	蘭	磁場が放射現象に与える影響の研究
	P.ゼーマン	蘭	磁場が放射現象に与える影響の研究
1903	A.H.ベックレル	仏	放射能の発見
	P.キュリー	仏	放射現象の研究
	M.S.キュリー	ポーランド, 仏	放射現象の研究
1904	レイリー卿(J.W.ストラット)	英	気体の密度の研究, アルゴンの発見
1905	P.E.A.レーナルト	独	陰極線の研究
1906	J.J.トムソン	英	気体の電気伝導の理論的及び実験的研究
1907	A.A.マイケルソン	米	光学における精密測定機器, それを用いた分光学, 計測学の研究
1908	G.リップマン	仏	干渉現象を用いた天然色写真法
1909	G.マルコーニ	伊	無線電信の開発への貢献
	C.F.ブラウン	独	無線電信の開発への貢献
1910	J.D.ファン・デル・ワールス	蘭	気体・液体の状態方程式
1911	W.ヴィーン	独	熱輻射に関する法則の発見
1912	N.G.ダレーン	スウェーデン	灯台照明用ガスアキュムレーターの自動調節器の発明
1913	H.カメルリング・オネス	蘭	液体ヘリウムの製造に至る低温物性の研究
1914	M.v.ラウエ	独	結晶による X 線回折の発見
1915	W.H.ブラッグ	英	X 線を用いた結晶構造の解析
	W.L.ブラッグ	英	X 線を用いた結晶構造の解析
1916	受賞者なし		
1917	C.G.パークラ(翌年決定)	英	諸元素に特異的な X 線放射の発見